

令和8年度 (2026年)

令和8年6月1日制定

(期間：令和8年6月1日～令和9年5月31)



株式会社日栄安全衛生計画



日栄企業理念

「企業は人なり」「安全の最優先」を基本に世の中に素晴らしい物を残し地域社会に貢献する。

■ 安全活動方針

企業理念である「安全は全てに優先する」を基に、「仲間の作業が安全か?」「仲間の作業が適切か?」互いが敬意互いが助け合うことで、全ての社員と協力会社が一体となり、安全で安心して働きやすい職場環境を構築し、年間を通じ無災害を達成するための活動方針を定め、以下の項目をその優先事項とし日頃の安全衛生活動を推進する。

1 心身両面における健康増進

社員が最大限に能力を発揮するためには、一人ひとりの安全と健康が重要であることから作業と健康管理は全てに優先するという基本的な考え方を堅持し、個人の意識向上と組織の機能強化を両立する。

2 安全衛生管理の意識向上

社員・協力会社が一体となり、対話を通じて信頼関係を深め、不安全状態を取り除く活動を推進する。リスク評価で起こりうる事故・災害を特定し、安全を先取りした実現可能な作業計画を定める。安全に対し、「黙認しない、見落とさない、妥協しない」という強い気持ちで災害を防止する。

3 健康の保持増進等の推進

健康で安心して働ける職場づくりに向けて柔軟な働き方を積極的に活用し、職場内の信頼関係を構築し早期発見・早期対応にて健康障害を予防するとともに、総労働時間低減とワークバランスの向上を図る。

4 衛生関係法令の遵守(熱中症対策の強化2025年6月1日施行)

熱中症対策の強化を定めた安衛法の改正から1年が経過した。本年も規模しい夏場の猛暑と湿度の高い日々が予想される。熱中症の死亡災害は2年連続で30名を超え、その死亡原因のほとんどが「初期症状の放置・対応の遅れ」とされている。朝礼での健康状態の確認を実施しWBGTレベル測定器を活用する等熱中症予防対策を強化し、緊急時の救急処置、熱中症事例など労働衛生教育を実施する。

5 交通管理

思いやり運転に努め、車両ごとに設置しているチェックシートにより日常から車両の異常発生防止に取り組む。誰にでも起こりうる災害(業務上、通勤)防止に向けた安全対策の推進に取り組む。

■ 安全目標

労働災害ゼロの達成

交通災害ゼロの達成

■ 安全スローガン

一人ひとりの力を合わせ、健康で安全に働ける職場を築き上げ

労働災害・交通災害ゼロの達成を目指そう!

■ 部門別実施重点事項及び重要優先課題

共通	(1) 安全と健康を最優先とする快適職場づくりの推進。 (2) 法令遵守の徹底 (3) 工事安全衛生方針・目標計画を立案し、協力会社とも共有し施工を進める。 (4) 通勤・移動時の交通事故、未然防止対策として、思いやり運転に努める。 (5) 5大災害防止の墜落・転倒災害防止に向けて墜落防止用設備など安全設備の完全設置に努め危険リスクの芽を取る創意工夫を実行する。(墜落防止教育DVDの充実も同時に実施する) (6) セキュリティリスクの低減に努め、PC管理・保護の強化に努める。
総務部	(1) 毎日の体調確認(検温含む)を継続し、記録の可視化により異常の早期把握に努める。 (2) 長時間労働者の抽出・面談・記録をルール化し、過重労働の未然防止を図る。 (3) 健康診断結果の管理及び再検査対象者のフォロー体制を確立する。 (4) 職場内コミュニケーションの活性化(定期面談・意見収集)により心理的安全性の向上を図る。 (5) 5S(整理・整頓・清掃・清潔・習慣づけ)活動を継続し、定期点検・評価制度を導入する。 (6) 不審メールや不審な添付ファイルは開封しないルールを徹底する。
プラント	(1) 5大重大災害の撲滅に向けた安全対策を強化する。 (2) 積極的な声掛け、挨拶を推進し、ヒューマンエラーの未然防止に努める。 (3) 重大災害に的を絞った安全活動の推進。 (4) 一人ひとりの安全意識を高め、危険性を除去する。 (5) 工事計画の制度を高め、進捗状況を確認しながら柔軟な対応と確実な原価管理を行う。 (6) 仲間を守るためにより安全な職場をみんなで作る。
環境対策室	(1) 過去の災害事例を教訓として、危険に気づく力を日々養い、危険な行為を黙認せず、相互確認・相互注意を徹底し、現場に潜む「危険な芽」を確実に摘み取り労働災害ゼロを達成させる。 (2) 熱中症対策として熱中症防止の安全衛生教育を充実するとともに、アイススラリー等の対策商品を積極的に取り入れて労働環境の改善を行い作業員の安全を守る。 (3) 現場状況に適したKY活動を行い危険のポイント・安全対策について意見を出し合い周知徹底する。
佐賀関	(1) 佐賀関製錬所の推進するSTOP 6 ①はさまれ・巻き込まれ ②重量物 ③重機・車両 ④墜落・転落 ⑤有害物との接触 ⑥高温物との接触(溶体を含む)についてKYや施工計画書にてリスクを確実に抽出し安全作業に務める。 (2) 1か月に1回の梯子の定期点検・使用前点検を行い、2025年8月に発生した梯子使用時の類似災害を起こさないようにする。 (3) 工事の進め方に迷った時には、「止める、呼ぶ、待つ」で疑問を持ったまま作業しないようにする。
道路	(1) 現場の作業内容は事前に共有し、施工日には余裕を持って開始できるよう備える。 (2) 作業前のKYミーティングで、交通誘導員を含めた現場全員での安全意識の向上を心掛ける。 (3) 日栄の社名を背負っての運転を常に意識し、模範となるようなマナーの遂行に努める。 (4) 車両や機械・工具類は大切に扱い、使用後の車内清掃やメンテナンスで安全作業への第一歩とする。 (5) 猛暑による熱中症の予防策として、規則正しい生活と毎朝の健康確認を確実に実行する。 (6) 脱・指示待ち症候群を心掛け、気が付いたことは自ら率先して行動する。